

	委員名	章	政策	施策	取組PJ	要約(校了)	案該当ページ	見え消しページ	対応案
1	鈴木委員					パブリックコメントの対応をどうしたのか、HP公開されるとは思うが必要ではないか。	-	-	・事務局より説明済
2	竹内委員					<ul style="list-style-type: none"> <li>・対応案は基本的にお任せになると思う。パブリックコメントを募集した経験に照らすと、これほどの数の声が寄せられたこと自体、大いに評価できる。</li> <li>・P4の「熊本震災の日」など分かり易い提言、また制度的に改善すべきという提案については、速やかに対応した方がよいのではないか。</li> <li>・P3下から4つ目：「復旧を焦らず応急措置に留め」といった意見については、市が熊本城の復旧について世界的なイベントに合わせて早急に復興する方針にある背景などを丁寧に説明されることで、理解を得ていくべきではないか。</li> </ul>	-	-	・事務局より説明済
3	中山委員					ここでは代表的な、要約された意見のみでているが、公表時には具体的な対応が記載される。基本的には委員会等で審議した内容をふまえた形で対応いただきたい。	-	-	-
4	小林委員					MICEを凍結しないのかと書かれている意見が一番気になった。今だからMICEの機会を通して熊本を伝えるいい機会。凍結しない理由が市民の生活を無視しているのではなく、市民生活の基盤を作るために重要であることを市民に納得いただくことは重要。なぜ今MICEをやるのかを分かるよう丁寧に説明すべき。経済が廻ることが実は生活を豊かにすることに繋がると発信できた方が、期待や楽しみが生まれる。	-	-	-
5	相藤委員	全般				てにをはだが、“今回の地震”や“熊本の地震”の書き方を統一した方がいいのでは。	全般	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを定めて使い分けを行う。</li> <li>①「熊本地震」 ⇒固有名詞の熊本地震を指す</li> <li>②「地震」 ⇒一般的な地震を指す</li> <li>③「震災」 ⇒一般的な地震による災害を指す</li> </ul>
6	松田委員	Ⅲ			PJ⑤	パブリックコメント4P上から4段目：「震災の記憶を・・・」は計画のP11の単に記憶を伝承するイメージで捉えられている。私たちはその意識ではなく、記憶を次世代に活かす意味でこれを設けている。前書きの4行の部分「・・・伝承していきます。」までしか記載していないため、「伝承して防災・減災に繋がっていきます」まで書き込んだ方が、前向きなニュアンスが伝わるのではないか。	P11	P11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3章⑤(P11)に反映</li> <li>「将来同じような災害が発生した場合の対応はもとより、<u>防災・減災のまちづくり</u>に役立てるため、震災に関わる記録を集積・発信するとともに、様々な取組を通じて「熊本地震の記憶」を熊本の未来を担う子どもたちへ伝承していきます。」とする。</li> </ul>
7	後藤委員	Ⅲ			PJ⑤	PJ⑤のパブリックコメントではネガティブな意見として出ていたが、震災を受けてどのような心象風景が広がったかの視点も大事。防災に役立つのみでなく、人間として生きていく歴史の中で震災に出合ったところの心象風景などに関する取組はないのか。語り部の開催などはそれに相当するとは思うが。	-	-	・事務局から説明済み
8	後藤委員	Ⅲ			PJ⑤	下4行の「熊本を訪れる観光客・・・」の文章で“てにをは”に関するのだが、句読点が合っていないなどのため、読みにくい。	全般	全般	・全体的に確認し、対応する。

	委員名	章	政策	施策	取組 PJ	要約（校了）	案該当 ページ	見え消し ページ	対応案
9	中山委員	Ⅲ			PJ⑤	震災の記憶はひどいことばかりではない。県外等からの支援や地域の方々の支えあいも伝承していくべきでは。語り部等の中にそういったことも盛り込んでくれたら有難い。	P11	P11	・事業実施の段階で検討する。
10	松下委員	Ⅲ			PJ⑤	メカニズム研究は入れて頂いた。専門家でも意見が分かれるところなので正解はないと思う。研究をする大学と連携を蜜にすることで、どこまで研究が進んでいるかを行政として発信することは非常に大事。	-	-	-
11	相藤委員	Ⅳ	3	(2)		どう取り組んだかの記録は大切。熊本の色々な対応してくれた所のそれぞれの経過を辿った記録を集めて資料にしていきたい。	-	-	-
12	相藤委員	Ⅳ	3	(2)	①	色々盛り込みたいのは分かるが“～等”を多く使われている。（見え消し版）P25の①市民の災害対応力の強化で「食料・水等の備蓄など」と、“等”が続いているので、整理していただきたい。	P23	P23	・第4章3-(2)-①（P23）に反映
13	菅野委員	Ⅳ	3	(2)	③	P23「・平時から、地域との連携強化・・・」の最後の表現で「～それぞれが役割を分担しながら、円滑な避難所運営などの対応に当たります。」とこれだけ災害対応すると書かれている。計画なので、円滑な避難所運営するために何を準備しておかないといけないのかを書いていただく方がいい。例えば、「対応にあたるように準備する」といったような表現。ここだけ精神論になってしまう印象。	P23	P23	・第4章3-(2)-③（P23）に反映
14	菅野委員	Ⅳ	3	(3)	①	P24(3)避難環境の見直しの中身が避難所だけになっている。今回も在宅や県外避難の方がおられて、避難所指定だけでなく避難所に来られない方の対応についてどこかに追記すべき。応急給水体制の強化など避難所だけにとどまらないと思うが、そういった方々への配慮など、どこまで地域防災計画に反映できるか関わるが、もう一度検討すべきではないか。	P24	P24	・第4章3-(3)-①（P24）に反映
15	谷崎委員	Ⅳ	4	(1)		P28（溶け込み版）で二箇所“活用する”の言葉だが、(1)6行目“地元企業を積極的に活用する”、②「・」二番目で、“研究者を活用するなど”を工夫して検討していただきたい。“地元企業と連携して地域経済の活性化を図ります”“研究者の協力を得て”などの言葉にできないか。	P28	P28	・第4章4-(1)及び②（P28）に反映
16	後藤委員	Ⅳ	4	(1)	④	P29（溶け込み版）企業立地の部分で、以前のこの検討会で、震災があったからこそ熊本に誘致できるような話があったが、“復興を経て生まれ変わった「安全・安心なまち熊本」を”部分だけの文言では市民感覚では分かりにくい。震災があったからこそ企業に来て下さいのような意見があったと思うが、これでは少し薄い気がする。職員はこれで十分理解できるのか。	-	-	・事務局から説明済み
17	谷崎委員	Ⅳ	4	(1)	④	P29（溶け込み版）で“戦略的な企業立地補助制度となるよう再構築を検討する”が少し分かりづらいので、“となるよう再構築”をとって“戦略的な企業立地補助制度を検討する”がいいのでは。震災を踏まえて、それを活かした、生まれ変わった企業立地の補助制度が出来上がるのだろうと思う。	P29	P29	・第4章4-(1)-④（P29）に反映 分かりやすい表現となるよう「より戦略的な戦略的な企業立地補助制度となるよう再構築を検討するとともに～」とする。
18	松下委員	Ⅳ	5	(1)	②	都市圏部の市町村の連携は非常に大事。罹災証明の書式が異なり、熊本市が若干簡略化で他自治体に対してお詫びをした。熊本市だけ突出しては近隣自治体に禍根を残すと思う。（見え消し版）P36に近隣自治体への支援とあり、支援してあげるニュアンスを感じないわけではなく、ここそお互い様であろうと思う。このあたりはこれからどう連携していくのか軽んじずやっていって欲しい。	-	-	-
19	松下委員	Ⅳ	5	(1)	②	MICEはきちんとした形で市長はやると言われたので、それに対して裏づけ、財源の問題について、熊本城の再建で高騰する、市電の延伸もお金がいくらあるか市民であれば心配する。これで市民が元気になるなら説明していかれるべき。	-	-	-